

震災、万博を越え、 発足80周年へ



神戸経済同友会 代表幹事

高 梨 柳太郎

巻頭言

このたび、神戸経済同友会の代表幹事をお引き受けすることになりました。あらためましてどうぞよろしくお願い申し上げます。

神戸、兵庫は今、大きく動く時代を迎えました。大阪・関西万博と時を合わせるように、神戸空港の国際化がスタートし、ウォーターフロントではジーライオンアリーナ神戸をはじめ、新たな施設が姿を現しています。JR三ノ宮駅の駅ビルや、西日本最大級のバスターミナルを擁するツインタワーの建設も急ピッチです。

人と人、地域と地域をつなげる

そうしたなかでこのたびご選任いただき、身の引き締まる思いでございます。これまで40数年、地元メディア（神戸新聞社）として「人と人、地域と地域をつなげるのが一つの役割」と取り組んでまいりました。経済同友会の活動もまたその延長線上と考え、地元をさらに盛り上げてゆければと思っております。

神戸経済同友会では、神原忠明代表幹事の新体制のもと、前期の提言活動の実装を目指し「神戸空港国際化推進特別委員会」が設置され、空港利用状況の定点観測に着手し、近隣同友会へのアンケート調査なども計画しております。インバウンド、アウトバウンド双方の活性化を目指してまいります。

加えて新体制では、高齢化社会の進展や人口減少が避けられないなかで、どう持続可能な地域づくりを目指すのか、次なる提言の具体的な検討を進めています。

阪神・淡路大震災から30年を越え、ポスト万博を見据え、次のステージへ進む神戸、兵庫での、節目を意識した取り組みに注力してまいります。

全国3番目の歩み

私も節目の時を迎えます。全国3番目の経済同友会として、昭和21年、1946年に発足して、来年10月で80周年となります。まさに終戦直後の発足で、東京の経済同友会に続き、大阪でその関西支部ができ、神戸はその神戸事務所としてスタートしました。そして翌年、関西経済同友会とともに、神戸経済同友会に改称となりました。

以来、戦後復興、高度成長、バブルの崩壊、そして阪神・淡路大震災、震災復興と、時々の時代に向き合い、「考える同友会」「勉強する同友会」そして「行動する同友会」として、切磋琢磨し、提言を続けてきた歴史があります。

今こそ、その存在意義をあらためて示す時と心得、誠心誠意とめてまいります。皆さまのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。